

幻の玉音放送

同窓会会員：赤松 孝子

投稿日：平成27年9月15日

もう70年も経ってしまったのか月日が経つのは 早いと申しますが。小学生になる前に両親の故郷である山梨県南都留郡秋山村に疎開しておりました。昭和20年8月15日は暑い日で川遊びをしていたのですが周りを見回すと誰もいなくなっていました。どうしたのでしょうか？家から10分ほど離れた所に 鎮守の森があり村の人が100人位集まってその人たちが大声で泣いていたのです。何もわからない私は呆然と立ちすくむだけでした。その声は山や谷に響きわたっていたように思いました。後に聞かされたことですが「玉音放送」を聞いた人たちが泣いていた姿だったのでした。

戦後70年 安倍総理大臣の談話がどの様な内容になるのか世界中が注目している折でもあります。

単位認定試験も終わりホットした時、録画しておきました 昭和天皇が国民にラジオ放送で終戦を告げた「玉音放送」を見た時に鎮守の森のあの場面が繋がった思いがしました。

両親の親たちが早く疎開しないと身の危険を感じて早くと急がされて新宿駅の中央線のホームから列車内に乗り込むのにランドセルを背負ったまま窓から押し込まれたのを覚えております。あの時は恐ろしいと思いはしませんでした。賑やかな東京から山の中での淋しさの方が心に残っております。我が家は母と子供の疎開でし

たが集団疎開の方は大変な思いをしたそうですが 毎晩布団の中で泣いたそうです。

昭和20年3月の東京の大空襲は赤々と空を焦がす有様が今でも心に焼き付いております。B29の飛行機が東京を爆撃しての帰り道 大きなキラキラと光る物体を落として行くのですが燃料タンクと聞かされました。

戦争が終わり進駐軍のジープが山奥にも入ってくるようになりました。私の戦争体験は恐ろしい思いをした方々に比べたら大変なことではなかったと思いますが、今考えて見ますと子供達にも話してなかった事でした。終戦から70年という節目に思うことです。